

# 的外

みのる法律事務所便り  
令和8年3月第431号



みのる法律事務所  
弁護士 千田 實  
〒021-0853  
岩手県一関市宇相去57番地5  
TEL:0191-23-8960  
FAX:0191-23-8950

いなべんだべんく  
田舎弁護士の駈弁句

207



悪いこと とめてやるのが 真の友  
後うだけでは 友とは言えず

令和8(2026)年3月1日  
あおぞらうきよのすて  
青空浮世乃捨



トランプアメリカ大統領は、突然アメリカ軍隊を使いベネズエラに侵攻し、ベネズエラ大統領夫妻を拉致、つまり無理に連れ出し、アメリカで監禁するという暴挙に及びました。これでは北朝鮮の拉致事件以上に乱暴で法や常識に反しています。

それだけにとどまらず、イランにアメリカ軍隊を使い、イランの指導部が会議をしている建物を奇襲させ爆破し、皆殺しにしました。これは、ベネズエラの大統領夫妻拉致事件以上に通念、つまり社会一般が共通に持っている考え方に著しく反する暴挙であり、理由はどうあれ許されるものではありません。トランプ大統領は気が狂っているとか思えません。

このアメリカ大統領の暴挙に対し、アメリカの同盟国であり、アメリカといっしょに闘うという日本国の高市首相は、一言も発言することなく、止めることなど全くしていません。諫める、つまり正しい道のあり方を示して、悪い行いをやめさせ、改めさせたりしようとは全くしていません。

これで日本は、アメリカの同盟国と言えるのでしょうか。高市首相は本気でアメリカといっしょに行動をして、世界を平和にしようとしているのでしょうか。高市首相という人は、自分の立場を守るだけで他人のことなど考えない気がします。牝狐のようなつくり笑顔を見えています、悪賢い女のように見えてきて、心の底から信頼する気になれないのです。

このような高市首相は近日中にアメリカを訪問し、トランプ大統領と会談するとのことですが、その会談ではどんな話がされるのでしょうか。いっしょに戦争をするように求められるかも分かりません。

日本もイラン戦争に自衛隊を出すようになどと求められ、それを承諾するなどということは絶対にはないと思いますが、高市首相は危ない気がしてならないのです。高市首相の暴走を止めるのは日本人の民意です。いまこそ民意を届けましょう。

い な べ ん だ べ ん く  
田舎弁護士の駄弁句 (208)

国民は 議員様など あてにせず  
皆で考え 皆で決めます



令和8(2026)年3月1日  
あおぞらうきよのすて  
青空浮世乃捨

高市首相の衆議院解散宣言、衆議院議員選挙とそれに対する国会議員の対応を見  
ていますと、高市首相も国会議員も、国民はあてにしてはならないと確信するに至りました。  
牝狐めぎつねのような悪賢い首相と、なにもしない、なにもできない国会議員を見ていると、日本  
の国会や国会議員などあてにしてはならないという思いに至りました。

そう思ったら、すぐにこんな駄弁句が生まれました。高市首相のずるさ、危なさにはこれま  
でも警鐘けいしょうを鳴らしてきましたが、国会議員の無能さにも警鐘を鳴らしたいのです。国会議員  
の先生などあてにできないのです。

そこでいま『警鐘 - 危険を知らせたいのです - 』シリーズ第7話は、『高市首相は、日本  
を戦争のできる国にしようとしています』というタイトルにして、警鐘を鳴らした上で、そうさせな  
いための方法として、「カウンター・デモクラシー」を勧める駄弁本を書いています。

カウンター・デモクラシーとは、民意つまり主権者である国民の声をバーや飲み屋などで  
調理場のすぐ前に腰かけて客が注文し、店はその注文を直接聞いて注文に応じるというよ  
うな直接民主政治のことを言うものです。

このカウンター・デモクラシーを活用して、国民の声を国会や内閣に届けることが国会に  
代わって民意を政治に反映させるには最も効果的なやり方であるということを伝えたいので  
す。国民は、国民の代表者である国会議員の先生様も、政治と金の問題をはじめとする  
いろいろな姿を見せつけられて信頼することはできなくなっています。

その上、今回の衆議院の解散、衆議院議員選挙における高市首相の暴挙に対してな  
んの手も打てずに許してしまい、高市首相のやりたい放題で国会は高市首相のやること  
にお墨付きすみづきを与えるだけの存在となっています。

国民は、デモ、街頭演説、市民団体活動、メディアの活用、各種独立委員会、裁判闘  
争、著作、講演、勉強会などの方法で、政治に直接参加する方法を取らざるを得ない状  
況となっているのです。

そんな思いで、こんな駄弁句よを詠んでみました。

# 『新刊書発行』と『いなべん塾』のご案内

New!!

## いなべんの哲学

人生は  
しほの瞬間  
まわりの人と一緒に  
楽しむのがみです。

## 警鐘シリーズ

- 第5話 『暇ない、争ない』
- 第6話 『何かをすることを許されている立場の人』
- 第7話 『高市首相は、日本を戦争のできる国にしようとしています』



この事務所便りをお読み戴いている皆様には、駄弁本を送りつけ、ご迷惑をおかけいたします。心底よりお詫び申し上げます。そう思いながらも、私にとってこの世で最も身近で大事な皆様には、自分がいま最もお伝えしたいという思いを駄弁本にしてお伝えたく、止めることができません。年を取り、頑固ジジイとなり、どこまでも自分のやりたいことをやり、やり通そうと他人の迷惑を考えずに駄弁本を押し付けていることを、この機会にお詫びを申し上げさせて戴きます。

その上で近いうちに発行予定の駄弁本の紹介と、その駄弁本の解説を主たる目的とする『いなべん塾』のご案内をさせて戴きます。

令和 8 (2026) 年に入って駄弁本は、高市首相が日本を戦争のできる国にして、自衛隊を戦場に送りトランプ大統領の下で戦闘をさせるのではないかという危険を感じ、そのようなことはさせてはならないという思いで、『警鐘 - 危険を知らせたいのです - 』シリーズ第 7 話『高市首相は、日本を戦争のできる国にしようとしています』を書いています。令和 8 (2026) 年 4 月中には発行できると思います。

前号では『警鐘シリーズ』の第 3 話と第 4 話を送り届けましたが、この事務所便りの次号かその後の号では、それまでに発行できている『警鐘シリーズ』をお送りしたいと考えています。

駄弁本は、「高市首相は日本を戦争に参加させる危険がある」という政治の世界ばかりではなく、「老人となったらどう生きたらよいか」という身近な問題についても書いています。いまは和田秀樹先生の『80 歳の壁』という「80 歳を超えたらどのように生きたらよいか」というべ

ストセラー本を参考にして、人生 100 年時代の高齢者の生き方について書いています。

3 部作ですが、全巻脱稿しています。これから出版社と相談して、どのような形で発行するかを決めることになります。

この事務所便りをお読み戴いている皆様には、発刊次第、謹呈と称して送り付けるつもりです。ご迷惑をおかけすることになりますが、どうか笑ってお許し下さい。

私の駄弁本は、私が難しいことが分からないのですから、難しいことは書いていないと思っ  
ていますが、それでも解説した方がよいという思いがする部分はあります。法的に専門的であ  
ったり、難しい哲学的思考であったりする部分もあります。興味や関心のある方のために、  
研修会とは別に『いなべん塾』を開校しました。このことは前号でも紹介しましたが、改めてご  
案内させて戴きます。

『第 1 回いなべん塾』は、令和 8 (2026) 年 2 月 28 日 (土) に、一関文化センター小ホ  
ールで開校したところ、予想以上の塾生に集まって戴き、「基本的人権と公共の福祉」の  
関係について議論しました。活発な意見が多く出され、私もよい勉強をさせてもらいました。

次回は、令和 8 (2026) 年 4 月 25 日 (土) 午前 10 時から 12 時までの予定です。会場は  
一関文化センター小ホールです。課題、つまり解決を求められている問題は、「基本的人  
権と社会正義」です。「社会正義の実現のためなら、基本的人権は我慢しなければならない  
ものなのか？」という問題です。

「基本的人権というものは、どういうものなのか?」、「社会正義というものは、どういうもの  
なのか?」を深掘りしてみたいのです。

このような問題に関心のある方は、『第 2 回いなべん塾』にふらりと出てみて下さい。教材  
はすでに発行済みの駄弁本を使いますが、会場に準備しておきますので、なんの準備もいり  
ませんので、塾に来てもらい、ご自分の考え方を述べ、他人の考え方も聴いて戴き、互いに  
面白く切磋琢磨、つまり志を同じくする者が互いの欠点や誤りを直しあつて向上をはかつて  
みませんか。

それぞれの考えを聴くことは、いい勉強になります。自分で発言することは自分の考えをま  
とめるいいチャンスとなります。

Let's  
Study!



いなべん塾



Let's  
Study!